

2012年3月期 第2四半期決算説明会資料

2011.11.10

 三信電気株式会社

代表取締役社長 松永 光正

(証券コード:8150)

※ 資料取扱い上のご注意

このプレゼンテーションで述べられている業績見通しは、現時点で入手可能な情報に基づく将来の予測であって、潜在的なリスクや不確定な要因を含んでおります。実際の業績は、様々な要因により予想数値と大きく異なる可能性があります。実際の業績に影響を与える重要な要因として主なものは以下の通りです。

- 日本・北米・アジア等の経済情勢、消費動向
- 販売先の生産動向や製品開発
- 仕入先の供給状況や製品開発
- 競争激化による価格下落
- 為替相場の大幅な変動等

・ 2012年3月期 第2四半期業績概要

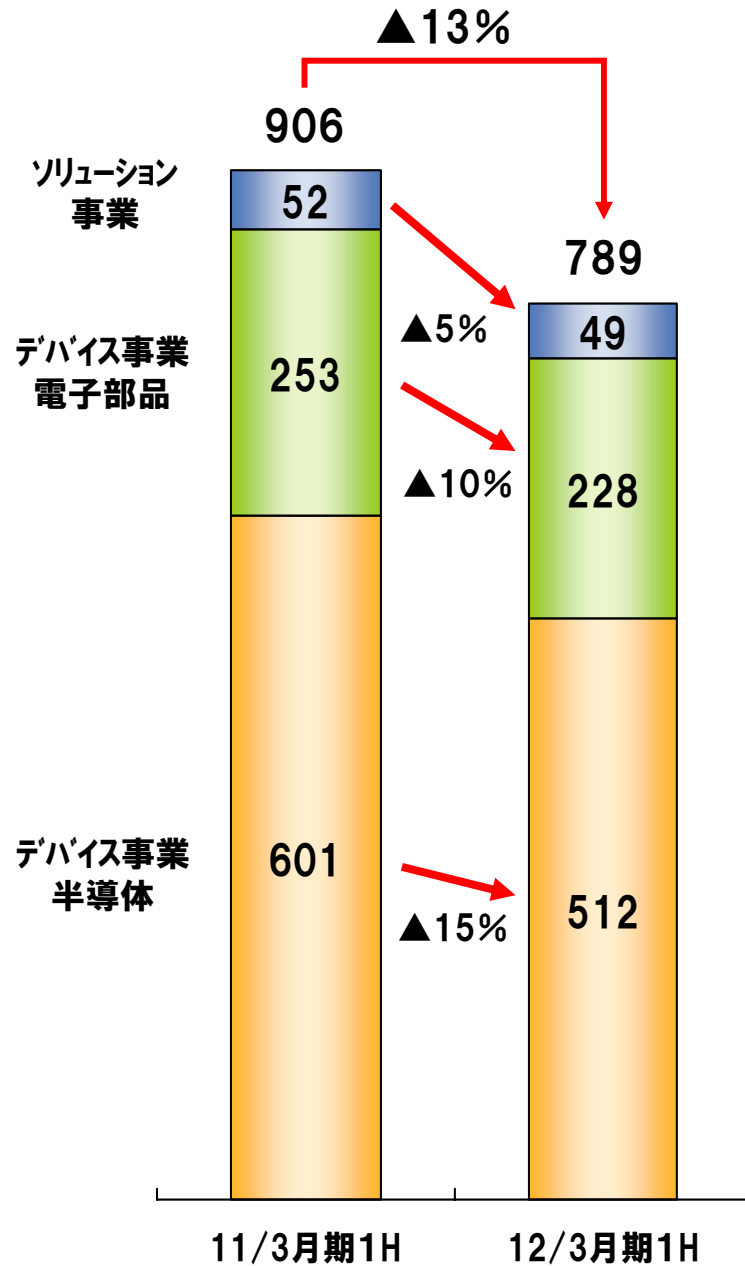
- 売上高は前年同期比▲13%（TOY分野▲42%、TOY分野以外▲3%）
- 営業利益/経常利益/四半期純利益は売上高減少により大幅減益

	11/3期 第2四半期 累計実績	12/3期 第2四半期 累計実績	前年 同期比	※ 期初予想	達成率
売上高	906	789	87%	810	97%
売上総利益	6.5% 58.6	6.7% 53.2	91%	6.2% 50.4	106%
販管費	5.1% 46.2	6.0% 47.1	102%	5.9% 47.7	99%
営業利益	1.4% 12.5	0.8% 6.1	49%	0.3% 2.7	225%
経常利益	1.5% 13.2	0.8% 6.4	48%	0.4% 3.0	212%
四半期純利益	0.8% 7.6	0.5% 4.0	53%	0.2% 1.5	268%
換算レート (1米ドル)	¥88.94	¥79.82	増減 △¥9.12	¥82.00	増減 △¥2.18

※①第2四半期累計:4月1日~9月30日

※②期初予想は平成23年5月18日(11/3月期決算)に発表した予想数値

※③11年3月期第2四半期実績は遡及適用を行っておりませんので、決算短信記載数値と異なります



- デバイス事業は▲13%、ソリューション事業は▲5%
- デバイス事業品目別では、マイコン、A&Pは商流移管により増加、機構部品はコネクタが好調に推移

	11/3月期 第2四半期 累計実績	12/3月期 第2四半期 累計実績	前年 同期比
連結合計	906	789	▲13%
デバイス事業計	854	740	▲13%
半導体	601	512	▲15%
SoC	346	248	▲28%
マイコン	86	99	+15%
A&P ※	112	121	+8%
他半導体	57	44	▲23%
電子部品	253	228	▲10%
機構部品	120	131	+10%
回路基板	23	19	▲19%
他電子部品	110	78	▲29%
ソリューション事業計	52	50	▲5%

※A&P…アナログ&パワー半導体

- デバイス事業は、売上高減少が響きセグメント利益で前年同期比▲60%
- ソリューション事業は、売上高減少もセグメント利益は前年同期比で大幅増加

		11/03期 第2四半期 累計実績	12/3期 第2四半期 累計実績	前年 同期比	※ 期初予想	達成率
デバイス 事業	売上高	854	740	87%	757	98%
	セグメント利益	1.4%	0.6%		0.3%	
ソリューション 事業	売上高	12.0	4.8	40%	2.0	240%
	セグメント利益	4.3%	7.8%		3.8%	
換算レート(1米ドル)		2.3	3.9	171%	2.0	194%
		¥88.94	¥79.82	増減 △¥9.12	¥82.00	増減 △¥2.18

※①デバイス事業及びソリューション事業のセグメント利益の合計は、各事業に配分していない管理部門に関わる費用などの調整額の記載を省略している為、連結損益計算書の経常利益と一致しておりません

※②第2四半期累計:4月1日~9月30日

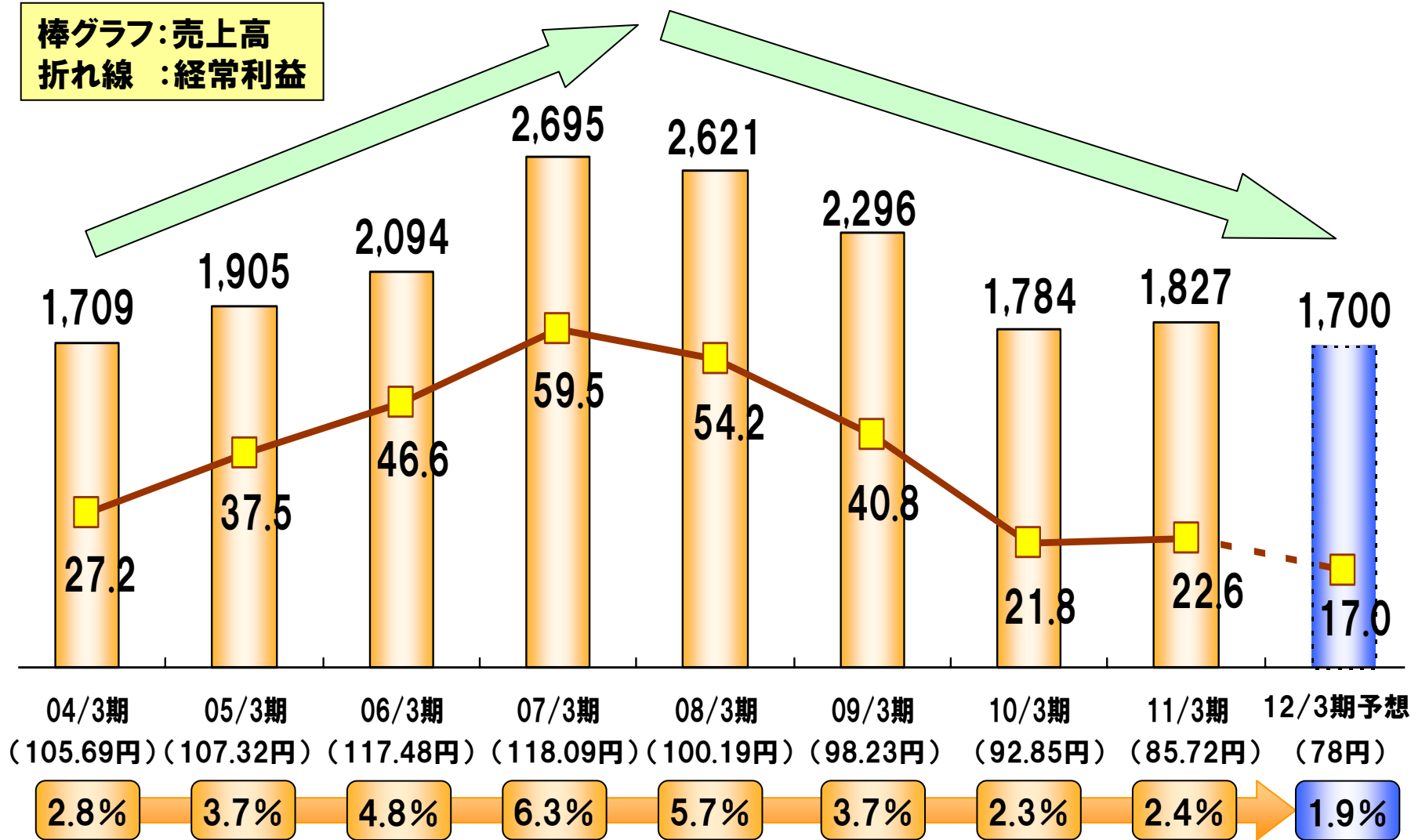
※③期初予想は平成23年5月18日(11/3月期決算)に発表した予想数値

・ 2012年3月期 通期業績予想

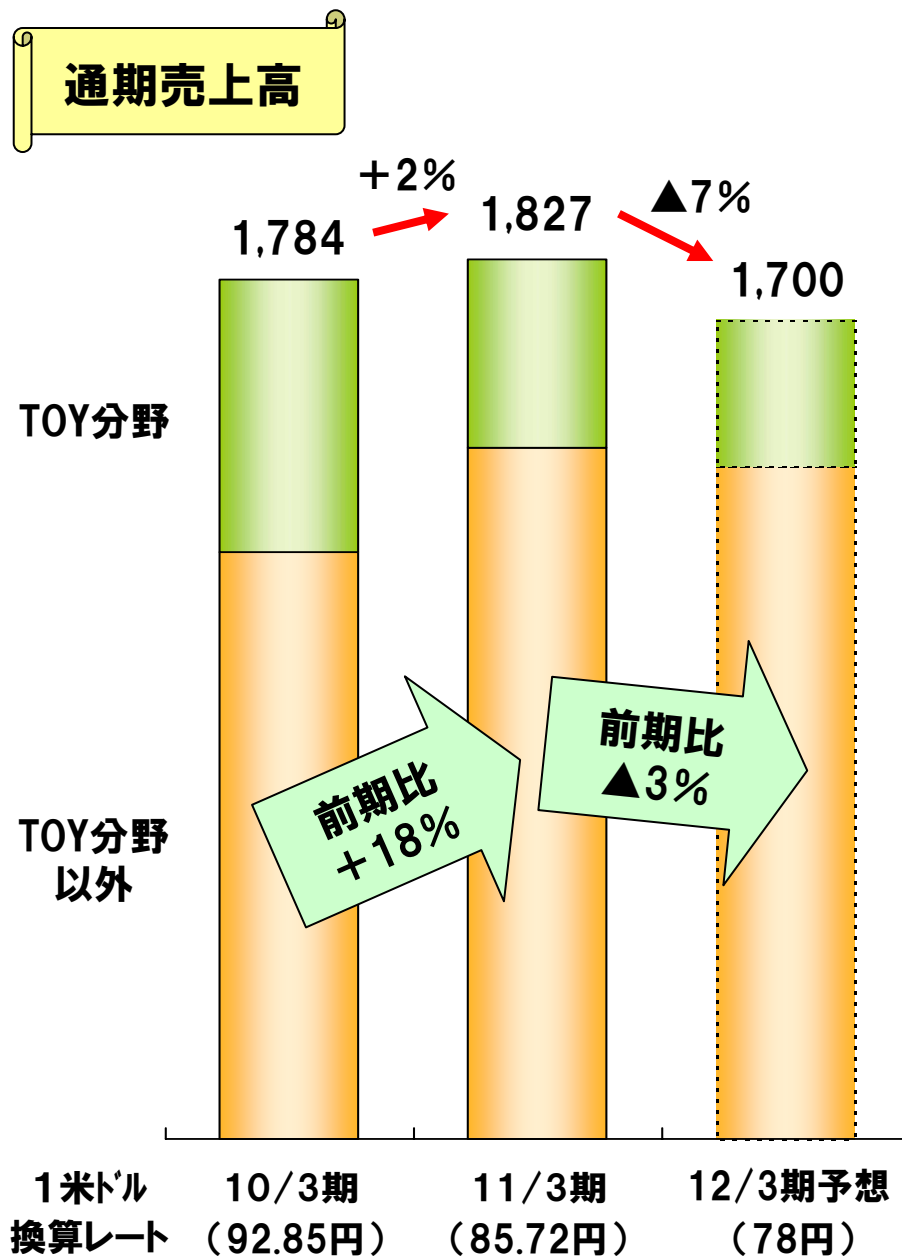
- 世界経済は 日米欧とも経済成長の押し下げ要因を抱え伸び悩み続く
- 国内電子工業生産は 東日本大震災に加え円高の影響により前年比大幅マイナスで推移
- 国内IT投資は 全体としては低調もBCPや省エネ等の追い風により緩やかな回復に期待
- 半導体業界は PC更新需要やスマートフォンの成長により前年比3～4%増と堅調な推移
- タイの洪水被害による影響は不透明も注意必要

■ 12年3月期予想は減収減益、当初の利益予想を上回るも回復は翌期に持ち越し

棒グラフ:売上高
折れ線:経常利益



※上段:1米ドル換算レート、下段:連結ROE



- 12年3月期売上高予想は、TOY分野の減少をTOY分野以外で補えず！
- ・当初予想 TOY分野以外 +5%
- ・今回予想 TOY分野以外 ▲3%

	11/3月期 実績	12/3月期 予想
TOY分野	▲31%	▲22%
TOY分野以外	+18%	▲3%

- 売上高は前期比▲7%（TOY分野▲22%、TOY分野以外▲3%）
- 営業/経常/当期純利益は前期比減、下半期の売上拡大で収益改善を見込む
- タイの洪水被害の影響は不透明の為、下記の予想に織り込んでおりません

	11/3期 実績	12/3期		前期比	期初予想	達成率
		1H実績	2H予想			
売上高	1,827	789	911	93%	1,780	96%
売上総利益	6.3% 115.7	6.7% 53.2	6.5% 59.2	97%	6.3% 113.0	99%
販管費	5.1% 94.0	6.0% 47.1	5.3% 48.3	101%	5.5% 97.5	98%
営業利益	1.2% 21.6	0.8% 6.1	1.2% 10.9	79%	0.9% 15.5	110%
経常利益	1.2% 22.6	0.8% 6.4	1.2% 10.7	75%	0.9% 16.0	106%
当期純利益	0.8% 14.5	0.5% 4.0	0.8% 7.5	79%	0.6% 11.0	105%
連結ROE	2.4%	—	—	増減 △0.5P	1.8%	増減 +0.1P
換算レート (1米ドル)	¥85.72	¥79.82	¥76.00	増減 △¥7.72	¥82.00	増減 △¥4.00

※①1H:4月1日～9月30日、2H:10月1日～3月31日

※②期初予想は、平成23年5月18日(11/3月期決算)に発表した予想数値

- デバイス事業は減収減益、セグメント利益は2Hで増加を見込む(対1H比 +3.2億円)
- ソリューション事業は増収増益の見通し、期初予想を上回る、収益率も0.7P改善

		11/3期 実績	12/3期		前期比	期初 予想	達成率	
			1H実績	2H予想				通期予想
デバイス 事業	売上高	1,709	740	840	1,580	92%	1,660	95%
	セグメント 利益	1.1% 18.9	0.6% 4.8	1.0% 8.0	0.8% 12.8	68%	0.8% 12.8	100%
ソリューション 事業	売上高	118.1	49.5	70.5	120.0	102%	120.0	100%
	セグメント 利益	6.1% 7.2	7.8% 3.9	6.1% 4.3	6.8% 8.2	114%	6.0% 7.2	114%
換算レート(1米ドル)		¥85.72	¥79.82	¥76.00	¥78.00	増減 △¥7.72	¥82.00	増減 △¥4.00

※①デバイス事業及びソリューション事業のセグメント利益の合計は、各事業に配分していない管理部門に関わる費用などの調整額の記載を省略している為、連結損益計算書の経常利益と一致しておりません

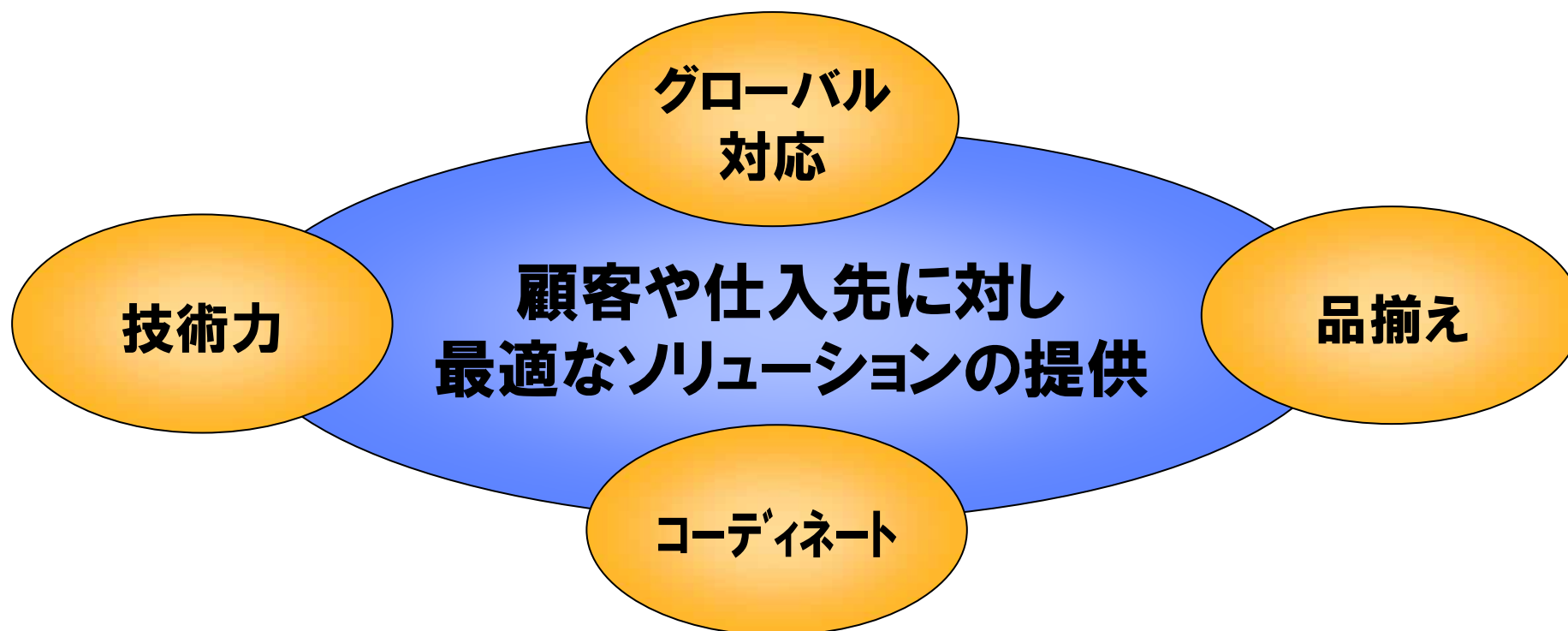
※②1H:4月1日～9月30日、2H:10月1日～3月31日

※③期初予想は平成23年5月18日(11/3月期決算)に発表した予想数値

・ 経営方針 / 重点課題

「信頼とソリューションで 存在価値を発揮する三信電気」

- ★顧客へは最適商品の安定供給 ⇒ 当社存在価値の向上
★仕入先へは販売機能の強化



新たな視点 & 取り組みを導入し強い収益体質を構築する

1. 事業力の強化

● デバイス事業

- ① ルネサスエレクトロニクス社の統合効果の最大化
- ② その他仕入先ビジネスの収益力の強化継続
- ③ 海外ビジネスの展開力の強化

● ソリューション事業

- ④ スtockビジネスの拡大

2. 経営基盤の整備

- ① 人材の強化とインフラ整備

1. ルネサスエレクトロニクス社の統合効果の最大化

☆統合効果による売上拡大

- ルネサスEL事業の
の足元固めを推進



●売上高 単位:億円

	11/03期 実績	12/03期 予想
商流移管分	41	186

- ①車載分野をはじめ幅広い分野へマイコンの拡販に注力
 - ・12年3月期売上高予想 マイコン前期比6%増、内車載分野前期比123%増
- ②マイコンをキーパーツとしたA&P製品等のキット提案の推進
 - ・12年3月期売上高予想 A&P(除くDrIC)前期比28%増
- ③戦略共有による特化した分野へのSoC(シスL)の拡販強化

※A&P・・・アナログ&パワー半導体

2. その他仕入先ビジネスの収益力の強化継続

☆売上拡大と総利益向上

・その他仕入先事業は
着実な取り組みを推進

●売上高構成比

	11/03期 実績	12/03期 予想
ルネサスEL	61%	60%
ルネサスEL以外	39%	40%

- ①産業系機器分野への傾注と海外仕入先製品の拡販強化
- ②ルネサスエレクトロニクス製品とのキット提案の推進
- ③新規仕入先、新規ビジネス、新規顧客による新たな収益源の獲得
 - ・海外仕入先の新規顧客商権の獲得 7社

3. 海外ビジネスの展開力の強化

☆拡大する海外の対応強化

- ・サプライチェーンの
多様化、複雑化への対応



●経常利益構成比

	11/03期 実績	12/03期 予想
国内	47%	37%
海外現法	53%	63%

①EMS／ODM企業への継続した拡販の推進

- ・12年3月期海外現法売上高予想 798億円/前期比3%増
- ・上記の内、主要EMS/ODM売上高前期比10%増

②海外要員の育成強化と核となるローカル社員の戦力化推進

- ・海外事業人員数 207名、内ローカル社員 155名

③ロジスティクスの整備、情報共有の推進、技術サポートの強化

※EMS・・・電子機器の受託製造サービス、ODM・・・相手先ブランドによる設計製造

4. スtockビジネスの拡大

☆技術の進展による 顧客ニーズへの対応

- ・「広い」且つ「深い」
サービスを提供

●ソリューション事業

	11/03期 実績	12/03期 予想
セグメント利益	7.2億円	8.2億円
ストック総利益 構成比	36%	37%

①技術サポート部門の機能強化

- ・音声系、データ系、ソフトウェア系を主体に体制、技術を強化

②ビジネスパートナーとの連携による複合型ソリューションサービスの提供

- ・ワンストップサービス、新たなサポートメニュー、全国展開、24H365日対応etc

1. 人材の強化とインフラ整備

☆効率化推進を継続

- ・人材のスキルアップ
- ・拡販活動の効率化、リスクミニマム



●連結業績

単位:億円

	11/03期 実績	12/03期 予想
売上高	1,827	1,700
販管費	94.0	95.4

- ①当初予想の販管費増加3.5億円は、効率化推進で1.4億円増加に圧縮
- ②人事プログラムや研修制度の充実、スキル保有者の採用(新卒/中途)
- ③情報システムの拡充とロジスティクスの最適化
 - ・ルネサスELのシステム統合を対応中(本稼動はH23.4月)
 - ・物流1拠点を統合、更に1拠点を統合予定、今期末に2拠点体制を確立
- ④グローバル化の対応強化、与信/在庫/債権/為替等のリスク最小化

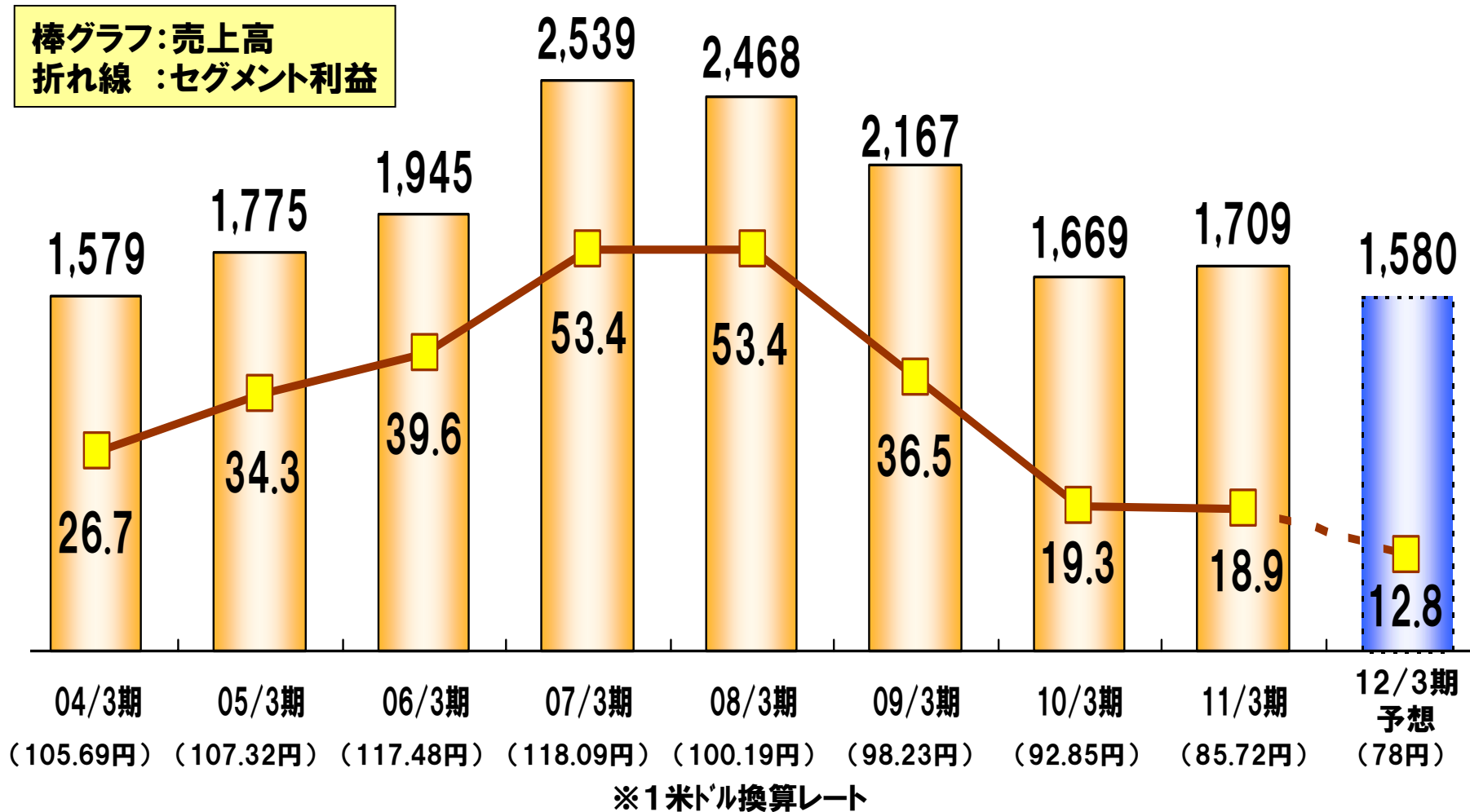
※①11年9月末人員 735名(前年同期比+30名)

⇒内訳:デバイス事業470名(+40名)、ソリューション事業186名(▲6名)、管理部門79名(▲4名)

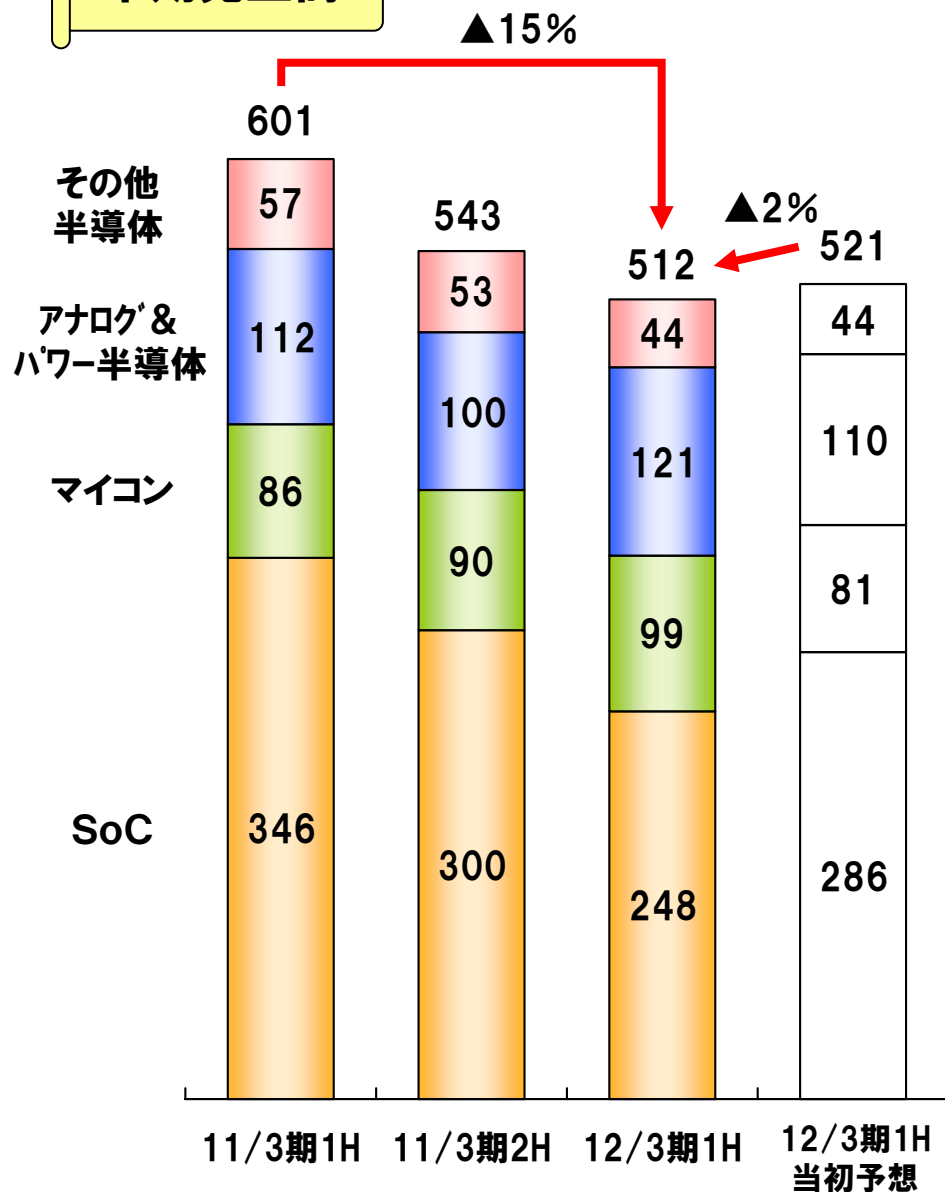
※②期末人員は就業人員数(当社グループへの出向者を含み、当社グループ外への出向者を除く)

・ 2012年3月期 デバイス事業業績予想

■ 12年3月期予想は、売上高前期比▲8%、セグメント利益前期比▲32%
 →ルネサス統合による新規商流の売上増は見込めるものの、ゲーム関連の減少、
 震災の影響、人員増強による販管費増等が響き、減収減益



半期売上高

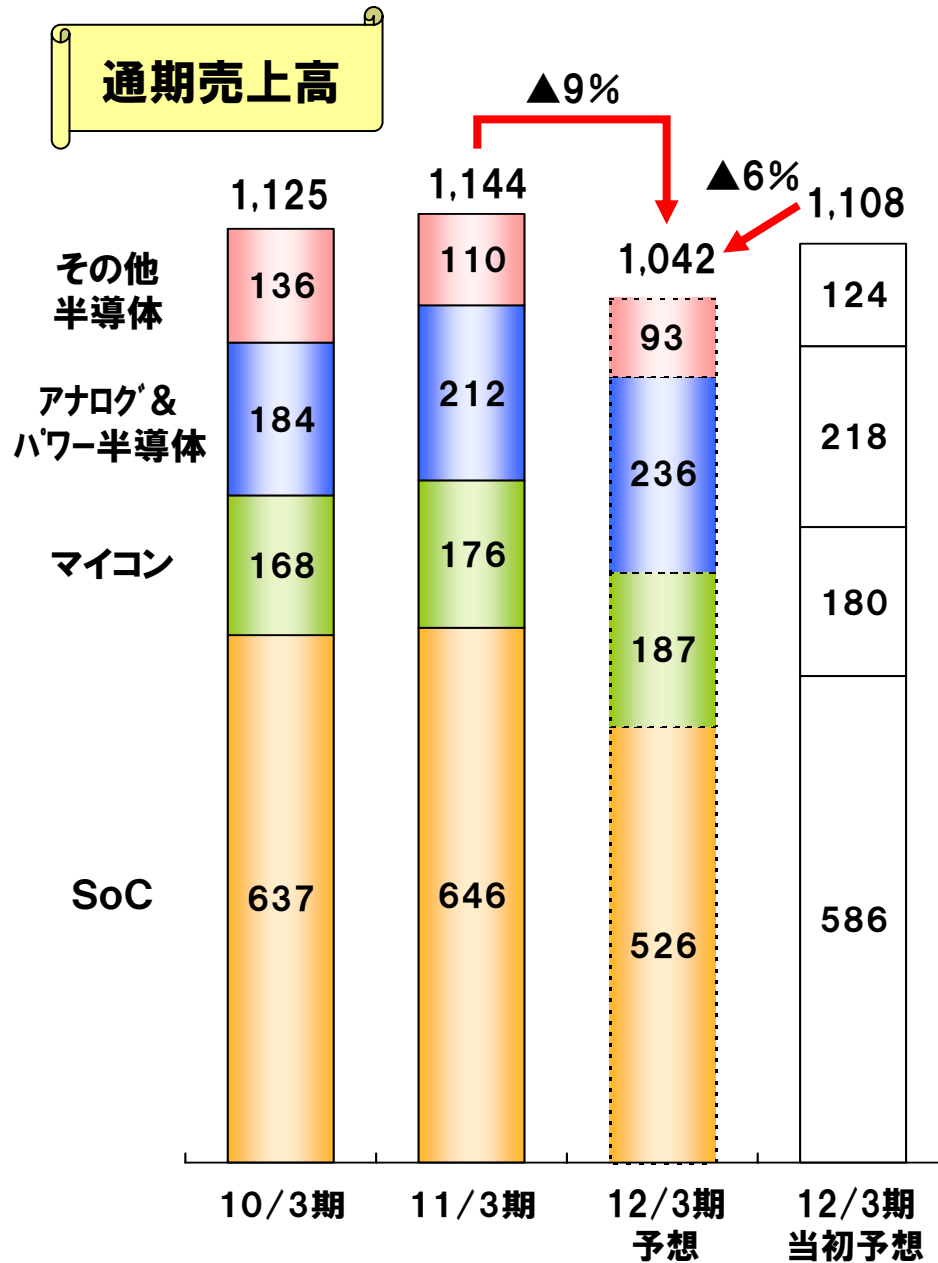


【前年同期比増減内容】

- SoC(システムLSI)
 - 旧ルネサス製品は商流移管により増加
 - デジタル家電/ゲーム機向けは減少
- マイコン
 - 旧ルネサス製品は商流移管により増加
 - デジタル家電/ゲーム機(含む周辺機器)向けが減少
- アナログ&パワー半導体
 - 旧ルネサス製品は商流移管により増加
 - 液晶パネル向けは減少
- その他半導体
 - PC向けが量産開始により増加
 - 携帯電話向けは減少

	前年同期比	当初予想比
SoC	▲18%	▲13%
マイコン	+15%	+21%
アナログ&P半	+8%	+10%
その他半導体	▲23%	±0%

通期売上高

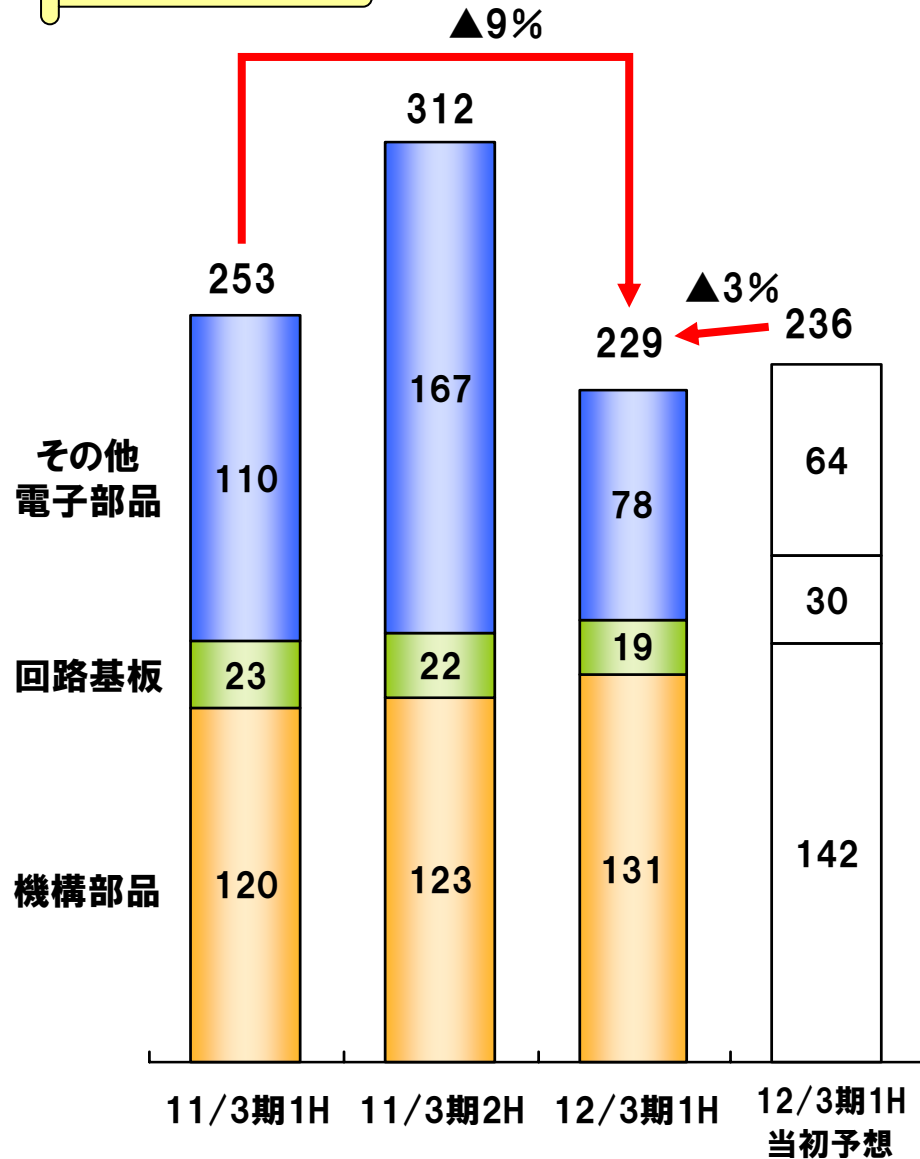


【前期比増減内容】

- SoC(システムLSI)
 - 旧ルネサス製品は商流移管により増加
 - デジタル家電/ゲーム機向けは減少
- マイコン
 - 旧ルネサス製品は商流移管により増加
 - デジタル家電/ゲーム機(含む周辺機器)向けが減少
- アナログ&パワー半導体
 - 旧ルネサス製品は商流移管により増加
 - 液晶パネル向けは横這い
- その他半導体
 - PC/携帯電話向けは減少

	前期比	当初予想比
SoC	▲18%	▲10%
マイコン	+6%	+4%
アナログ&P半	+11%	+8%
その他半導体	▲9%	▲6%

半期売上高



【前年同期比増減内容】

■ 機構部品

- デジタル家電向けは増加
- 携帯電話向けは減少

■ 回路基板

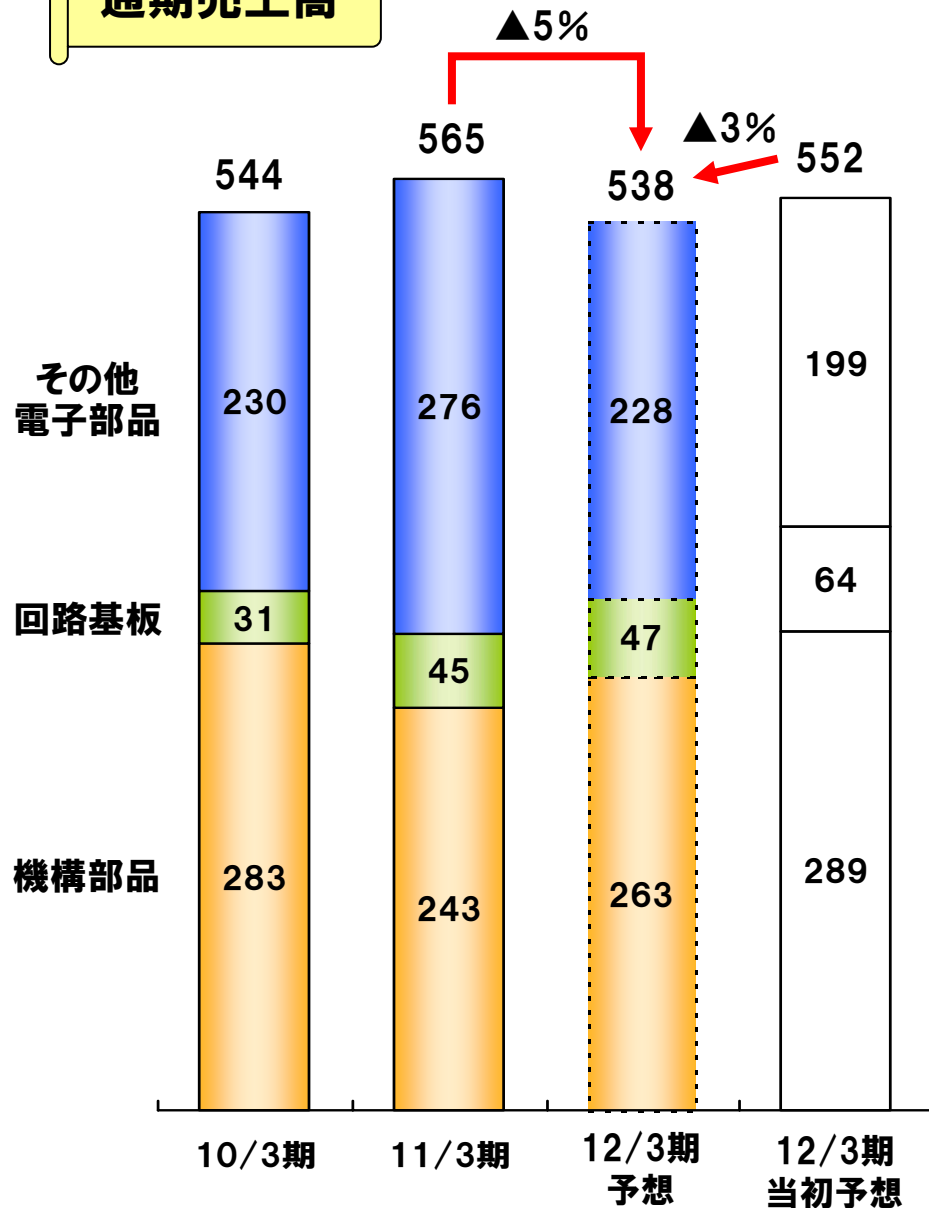
- TV向けが減少

■ その他電子部品

- 新規ビジネスは順調に増加
- ゲーム機向け(含む周辺機器)は減少

	前年同期比	当初予想比
機構部品	+10%	▲7%
回路基板	▲19%	▲38%
その他	▲29%	+21%

通期売上高



【前期比増減内容】

■ 機構部品

- デジタル家電向けは増加
- 携帯電話向けは減少

■ 回路基板

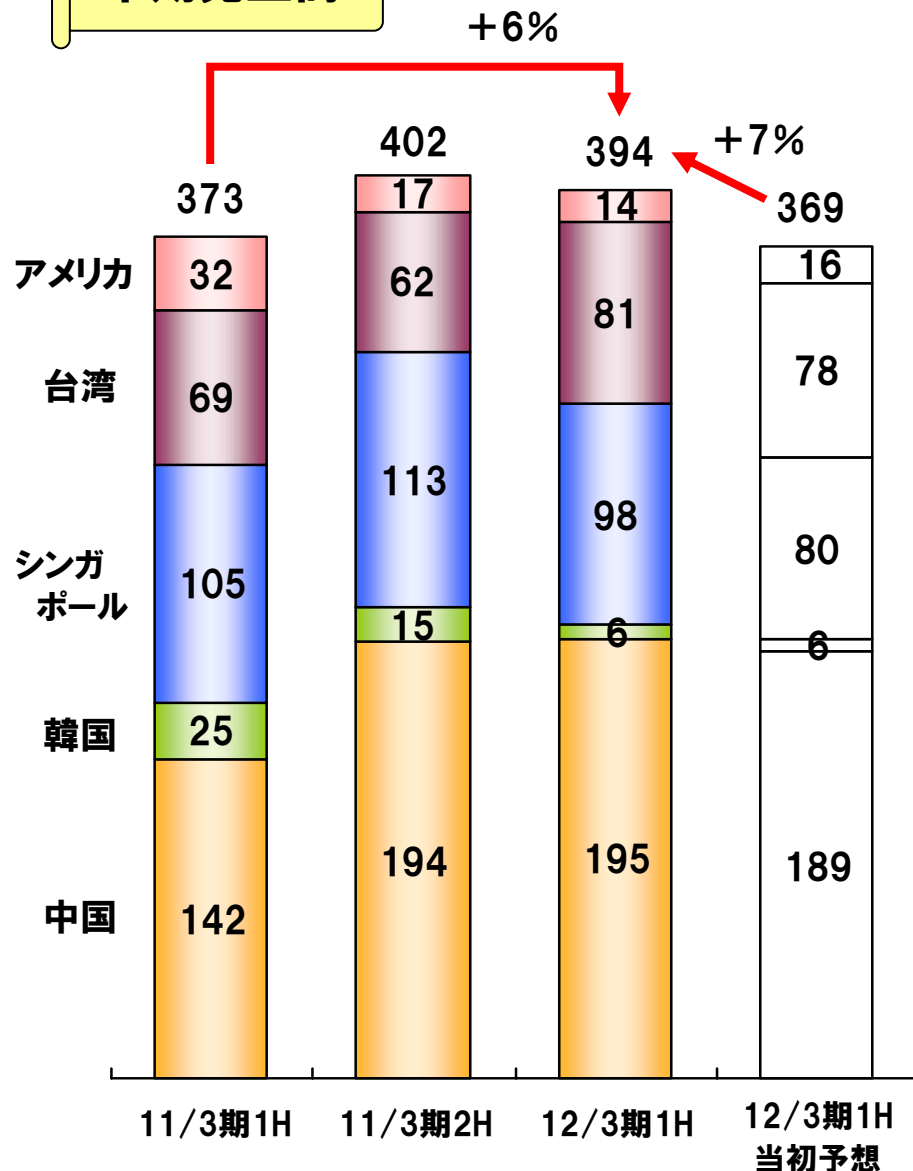
- 通期ではTV向けが回復

■ その他電子部品

- 新規ビジネスは順調に増加
- ゲーム機向け(含む周辺機器)は減少

	前期比	当初予想比
機構部品	+8%	▲9%
回路基板	+4%	▲27%
その他	▲18%	+15%

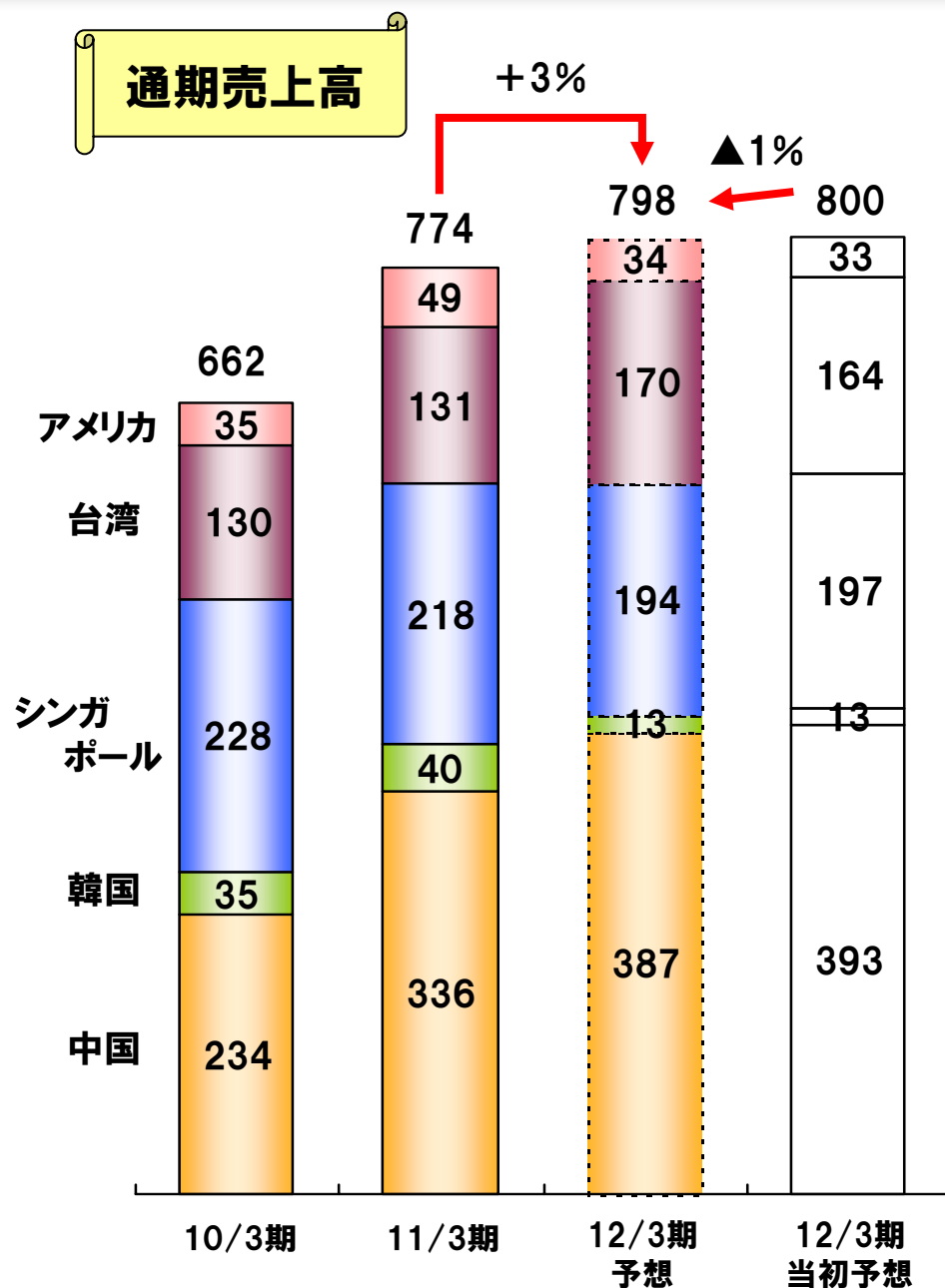
半期売上高



【前年同期比増減内容】

- **中国**
 - デジタル家電向けSoC(シスL)等は増加
 - PC向け半導体は増加
 - 携帯電話向け半導体は減少
- **韓国**
 - 商流移管により減少
- **シンガポール**
 - PC向け半導体は増加
 - デジタル家電向けSoC(シスL)は減少
- **台湾**
 - デジタル家電向けが増加
 - ゲーム機向けマイコン等は減少
- **USA**
 - デジタル家電向けSoC(シスL)が減少
 - GPSモジュール等新規ビジネスが減少

	前年同期比	当初予想比
中国	+37%	+3%
韓国	▲75%	+10%
シンガポール	▲6%	+23%
台湾	+16%	+3%
アメリカ	▲55%	▲14%

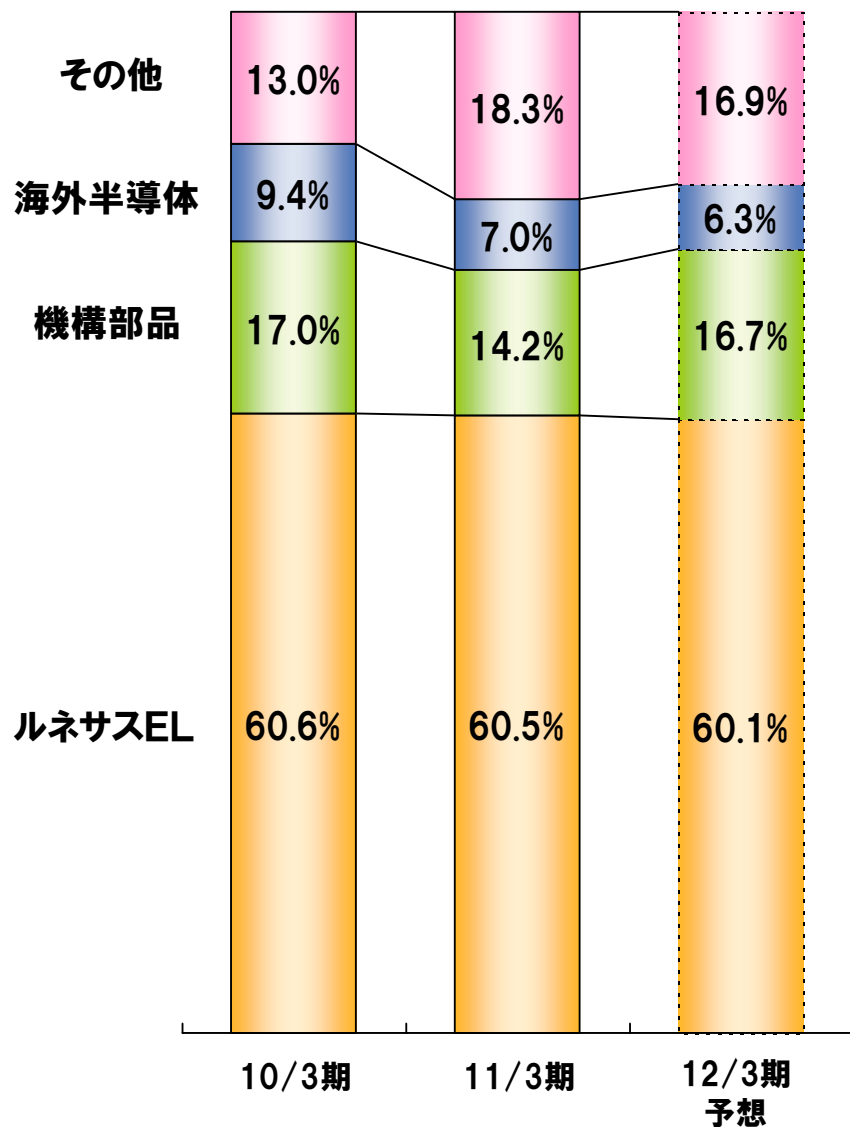


【前期比増減内容】

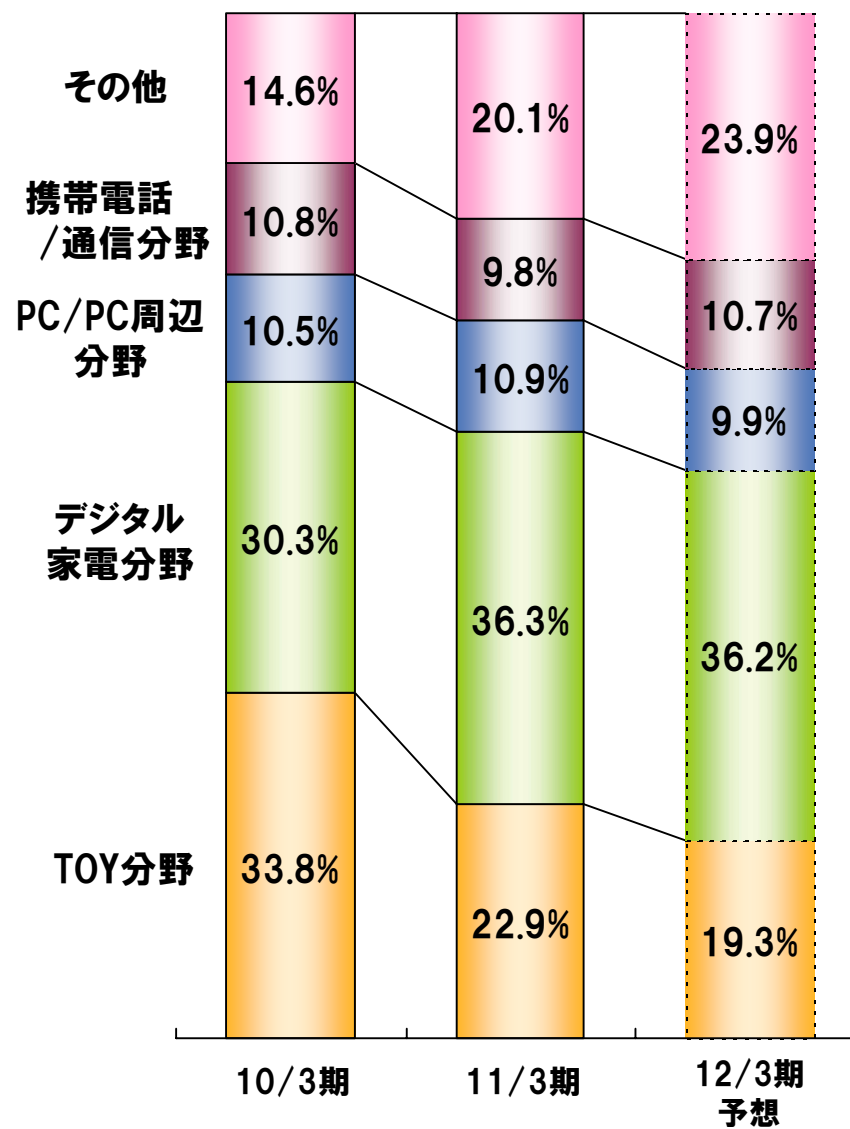
- 中国**
 - デジタル家電向けSoC(シスL)等は増加
 - 新規ビジネスの立ち上げを見込む
 - PC/携帯電話向け半導体は減少
- 韓国**
 - 商流移管により減少
- シンガポール**
 - PC向け半導体は減少
 - デジタル家電向けSoC(シスL)は減少
- 台湾**
 - デジタル家電向けが増加
 - ゲーム機向けマイコン等は減少
- USA**
 - デジタル家電向けSoC(シスL)が減少
 - GPSモジュール等新規ビジネスが減少

	前期比	当初予想比
中国	+15%	▲2%
韓国	▲66%	+3%
シンガポール	▲11%	▲1%
台湾	+29%	+3%
アメリカ	▲30%	+4%

仕入先別売上高構成比

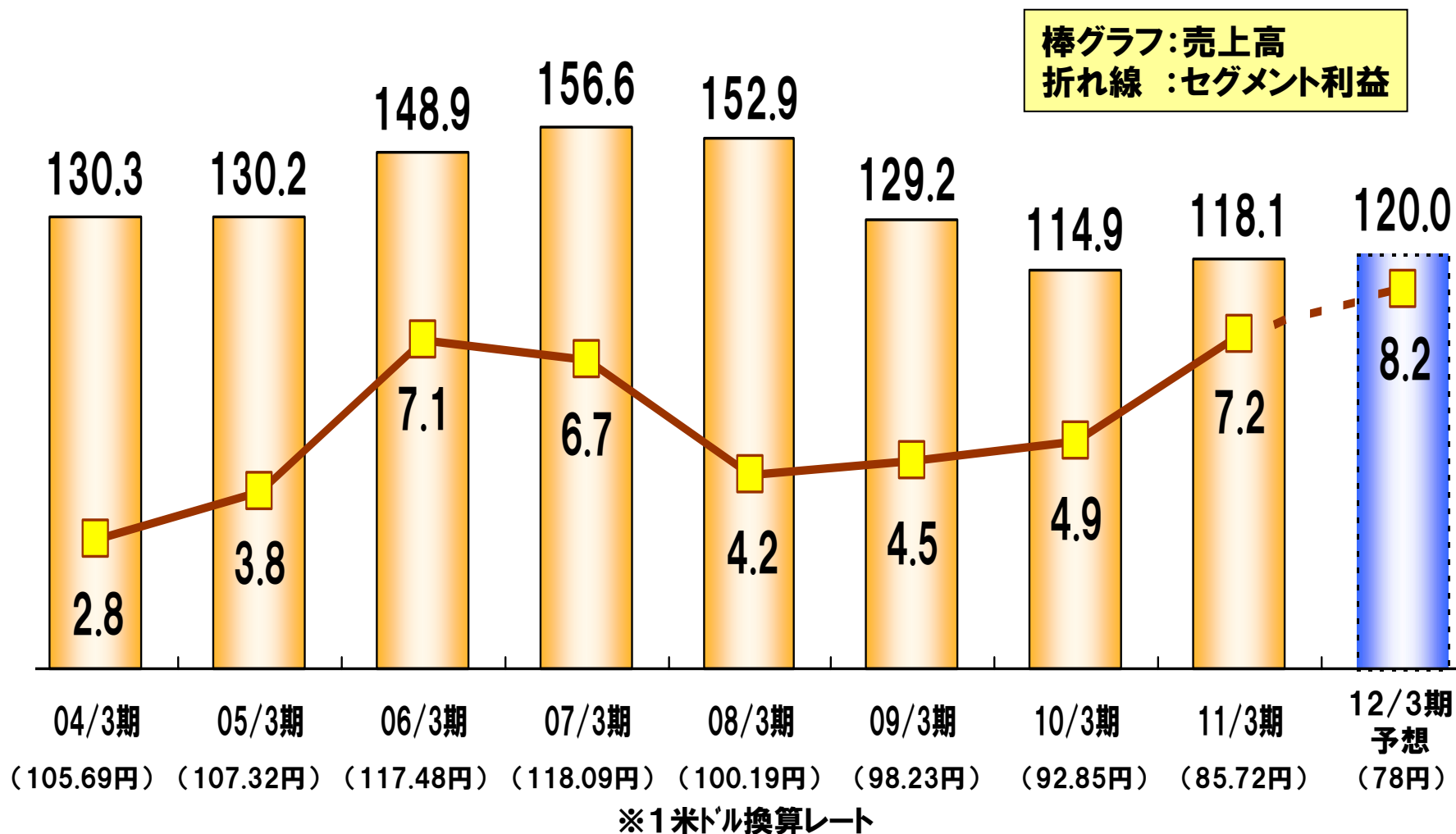


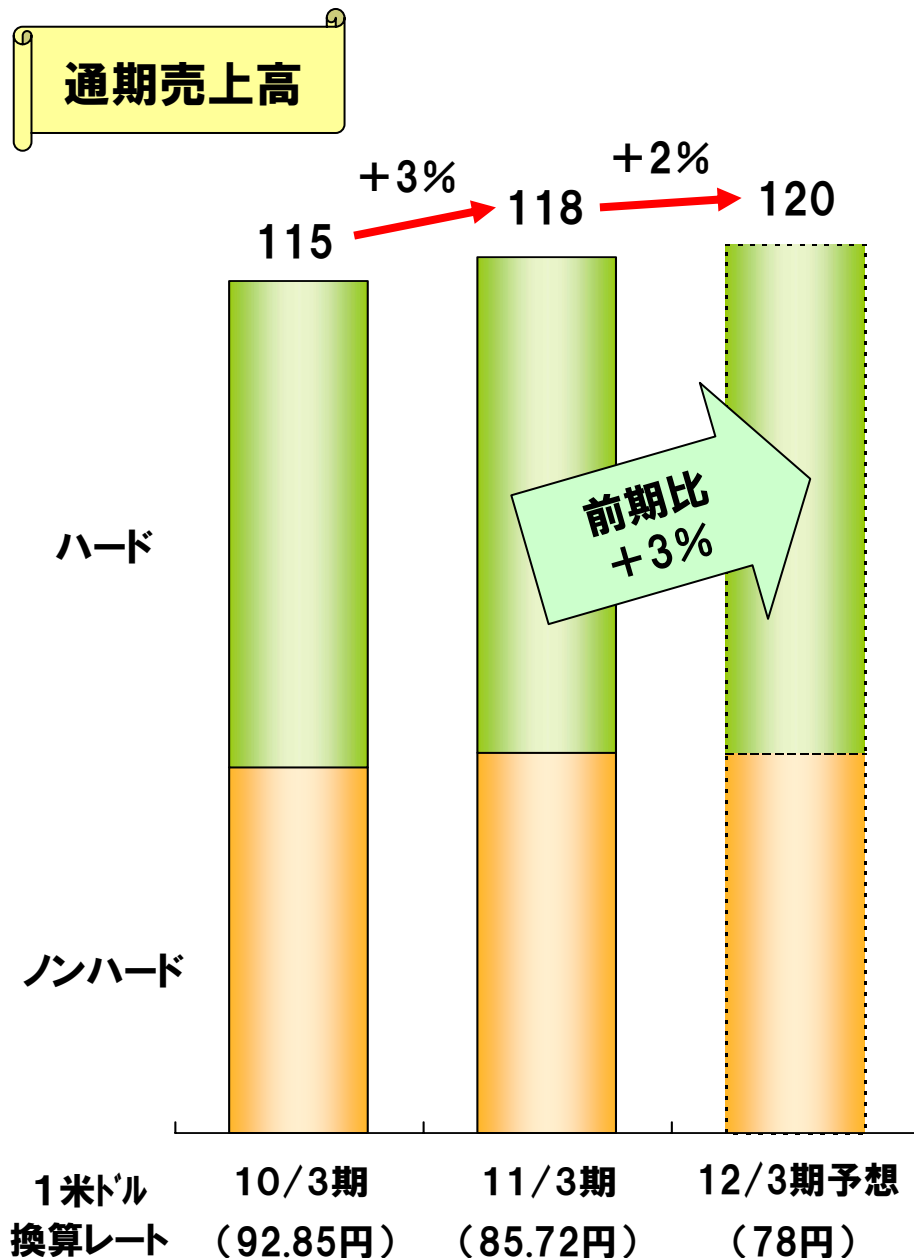
分野別売上高構成比



・ 2012年3月期 ソリューション事業業績予想

- 12年3月期予想は、売上高前期比+2%、セグメント利益前期比+14%
- セグメント利益は過去最高益を見込む、ストックビジネスの拡大で収益率改善

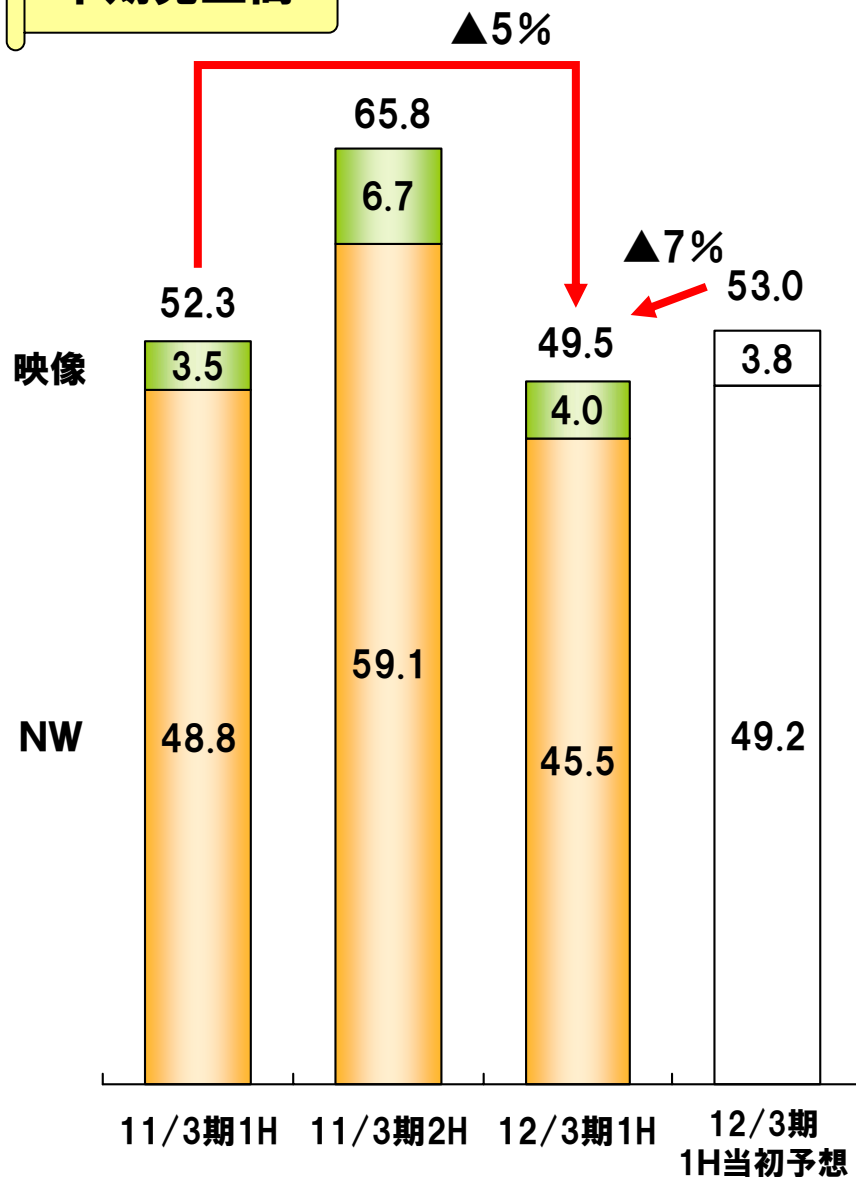




- 12年3月期予想はハードで増加、ノンハードは前期並みの見通し
- ノンハード構成比は40%台を維持

	11/3月期 実績	12/3月期 予想
ハード	+2%	+3%
ノンハード	+4%	±0%

半期売上高



【前年同期比増減内容】

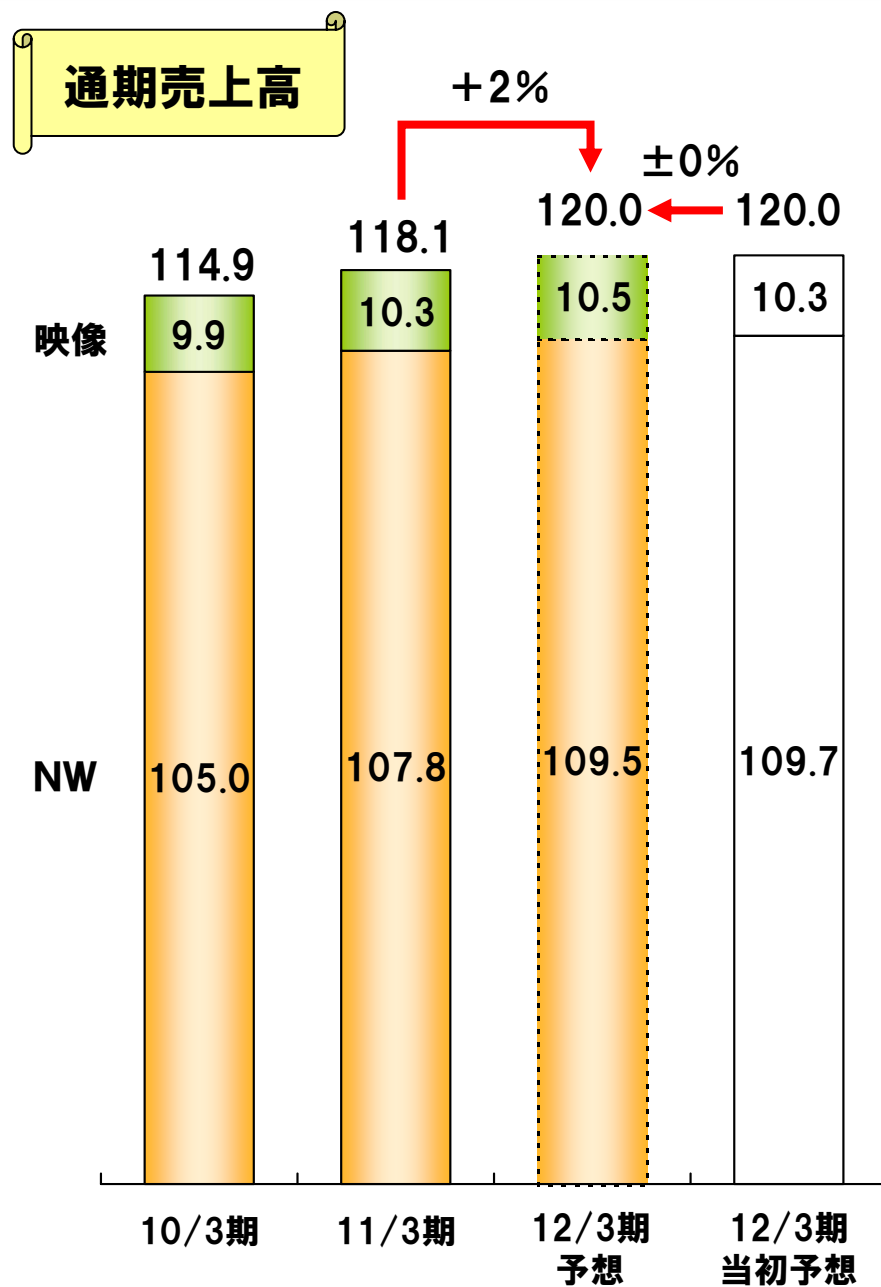
NWシステム関連

- 大手民間企業向けは増加
- アプリケーションソフトは微増
- 公共向けは減少
- 組み込み型OEM販売は減少

映像システム関連

- 携帯電話回線ライブ中継システムの増加

	前年同期比	当初予想比
NWシステム関連	▲7%	▲8%
映像システム関連	+14%	+6%



【前期比増減内容】

■ NWシステム関連

- 大手民間企業向けは増加
- アプリケーションソフトは増加
- 組み込み型OEM販売は通期では増加
- 公共向けは減少

■ 映像システム関連

- 携帯電話回線ライブ中継システムの増加
- CS放送HD化システムの増加

	前期比	当初予想比
NWシステム関連	+2%	▲0.2%
映像システム関連	+3%	+2%

・財務状況

科目	11年3月末 実績 A	11年9月末 実績 B	B-A 増減 (11/3対比)	12年3月末 予想 C	C-A 増減 (11/3対比)
現預金	68	126	57	119	51
売掛債権	549	453	△ 95	489	△ 60
棚卸資産	210	179	△ 31	170	△ 40
その他資産	97	83	△ 14	83	△ 15
資産合計	924	841	△ 84	861	△ 63
買掛債務	232	198	△ 34	214	△ 18
有利子負債	78	36	△ 41	36	△ 41
その他負債	18	19	0	19	0
純資産合計	596	588	△ 8	592	△ 4
負債・純資産合計	924	841	△ 84	861	△ 63
自己資本比率	64.5%	69.9%	+5.4P	68.8%	+4.3P

科目	11年3月期 実績	12年3月期予想		
		1H実績	2H予想	通期予想
売上債権の減少 (△は増加)	△ 121.3	79.1	△ 19.3	59.8
棚卸資産の減少 (△は増加)	△ 47.8	25.4	14.7	40.1
仕入債務の増加 (△は減少)	16.7	△ 22.5	4.2	△ 18.3
その他	22.8	18.7	△ 2.5	16.1
営業C/F	△ 129.6	100.7	△ 2.9	97.8
投資C/F	0.6	△ 0.6	△ 0.4	△ 1.0
財務C/F	44.6	△ 42.0	△ 3.0	△ 45.0
換算差額	△ 2.3	△ 0.7	0.0	△ 0.7
現預金の増減額	△ 86.7	57.4	△ 6.3	51.1
現預金の期末残高	68.2	125.6	119.3	119.3

※1H:4月1日~9月30日、2H:10月1日~3月31日

	08/3期	09/3期	10/3期	11/3期	12/3期予想
①連結当期純利益	3,415百万円	2,209百万円	1,340百万円	1,448百万円	1,150百万円
②包括利益	—	—	1,223百万円	637百万円	—
③連結自己資本比率	61.4%	72.1%	68.6%	64.5%	—
④配当総額 (1株当り配当)	1,201百万円 (38円)	1,168百万円 (38円)	605百万円 (20円)	605百万円 (20円)	605百万円 (20円)
⑤連結配当性向	35.2%	53.1%	45.2%	41.8%	52.6%
⑥自己株式取得総額 (取得株式数)※	809百万円 (700千株)	892百万円 (1,000千株)	—	—	未定
⑦総還元性向 (③+⑤)÷①	58.9%	93.3%	45.2%	41.8%	未定
⑧自己株式消却	—	—	1,702千株	—	未定
⑨発行済株式総数 (除く自己株式)	31,983千株 (31,282千株)	31,983千株 (30,281千株)	30,281千株 (30,281千株)	30,281千株 (30,280千株)	30,281千株 (未定)
⑩1株当たり当期純利益	106.95円	71.61円	44.28円	44.81円	37.98円
⑪一株当たり純資産	1,910.45円	1,956.15円	1,967.08円	1,968.14	—

※ 自己株式取得には単元未満株式の買取請求に伴う取得分は含まれておりません。

●基本方針

- 利益還元の拡大と内部留保の充実

●12年3月期 配当予想

- 連結業績は減益予想も、安定的な配当の実施を重視し、
前期と同額の1株当たり20円（中間、期末各10円）
- 連結配当性向 52.6%
- 08年3月期～12年3月期平均連結配当性向 43.8%